

平成28年 東北大学前期日程試験【物理, 化学, 生物】問題分析

1 今年（H28）の傾向

総評・講評（大問毎に）

- ① 問題数は、用語問題など昨年よりも更に増加し、着実な知識が求められ、考察問題の得点割合は減少傾向にある。
- ② 新カリ2年目になるが、昨年と同じく新カリの内容は出題されていない。
- ③ 問題文、図表をしっかりと読み込まないと解答できない問題が出題されており、論理的思考が求められている。
- ④ 東北大の記述の解答欄は、文字数制限の緩い解答枠方式であったが、今年は文字数指定での解答を要求する方式が大問1, 3で取られており、来年度以降も実施される可能性がある。
- ⑤ 文字数制限があり、指定された用語を組み込んでの解答が困難な問題があり、作問者の意図が判然としないものがあった。
- ⑥ 今年、例年出題される計算問題がひとつもなかった。

1. 平易な動物の消化という古典的な問題であり、最近では出題例の稀な問題であった。また毛細血管と組織との浸透圧の問題は、受験生にはなじみのない問題であった。緻密な学習を怠っていた受験生には、解答が難しいかもしれない。

2. I, IIは原核生物の転写・翻訳に関する基本的問題であり、IIIは真核生物の転写・翻訳の考察問題であった。I, IIが平易なので得点率は高いことが予想される。

3. 発酵, 好気呼吸, 窒素同化など代謝に関する基本的な知識を問う出題である。記述の問題は字数制限があり、作問者が期待する答案を作成することは難しかったかもしれない。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（%）予想

【文系】

文学部	%
教育学部	%
法学部	%
経済学部	%

【理系】

理学部	80%	歯学部	65%
工学部		薬学部	
医学部	85%	農学部	75%
保健／看護	65%		
〃 検査	65%		
〃 放射線	65%		

3 来年受験する生徒へのアドバイス

1. 教科書レベルの知識の理解と定着を大事に

受験問題に取り組む上で、基礎・基本の確立は最優先事項である。新課程では教科書の情報量も増加し、全てを消化吸収することは大変であるが、まず基本的な語句、テーマについて、教科書の内容を丸暗記するだけでなく、自分なりに説明できるまで習熟すること。また問題演習時に傍らに置き、いつでも見返せるようにするなどして、いつでも教科書レベルの基本に立ち返ることが実力向上の一步となる。

2. 過去問について

近年、東北大入試の生物では3題構成で続いているが、出題範囲は広く、出題内容も多様であり、今後もその傾向は続くと思われる。過去問演習を通して東北大の生物について精通することはもちろん、傾向が似ている弘前大学の問題や、問題量が多く思考力を要する山形大学の問題なども活用し、臨機応変に対応出来る柔軟な思考力を養って欲しい。